

祝 古河駐屯地創立64周年記念行事

第1施設団創隊57周年



古河駐屯地及び第一施設団（第一施設団長兼古河駐屯地司令 平栗陸将補）は、六月三日「古河駐屯地創立六十四周年・第一施設団創隊五十七周年記念行事」を挙行了。当日は、天候にも恵まれ、部内外からの多数のご来賓及び隊員家族や地域の方々、約五千五百名が駐屯地を訪れた。

富士学校音楽隊の演奏を皮切りに、観閲部隊指揮官 第一施設団副団長 矢田一佐の指揮の下、観閲部隊が参加し整列する中、執行者である司令が入場し、記念式典が始まった。司令は式辞の中で、「自衛隊への信頼感」を礎として、各種事態等に適切かつ万全な態勢をもって対応し、国民の負託にこたえられる実力組織であるべく各関係機関との連携を取りつつ、平素より準備、訓練、任務遂行に、より一層邁進し、併せて『地域とともに活気あふれる駐屯地』として地域の皆様からの、一層の安心・信頼を獲得できるように活動を行っていく（抜粋）」と述べた。

観閲行進では、車両八十七両が参加し、各部隊の指揮官を先頭に主要装備品が堂々の行進を披露した。式典終了後、市町旗紹介・防衛大学校ドリル・模擬戦闘訓練等のアトラクションを行い観客の目を楽しませた。特に、模擬戦闘訓練では、74式戦車やFH70等、各種装備が連携し、臨場感あふれる訓練を展示し、来場者は驚きと興奮を隠せない様子だった。

式典後は、装備品展示の中で双腕作業機を使用した資材等の移動、器材の切断等を表示し、災害派遣の際は民間の器材を使用して瓦礫の撤去作業などが可能であることを説明し、動的展示を実施した。また、ちびっこ広場や売店等は絶えず来場者で賑わい、大盛況であった。

昼からは、体育館において祝賀会食が行われ、駐屯地協力者等が多数参加する中で隊員を交え親睦を深める事ができ、盛会のうちに終了した。



装備品展示（双腕作業機）



防衛大学校ドリル



観閲行進



執行者（平栗陸将補）



祝賀会食



模擬戦闘訓練



市町旗紹介



観閲部隊

企業隊内生活体験



救急法



重材料運搬



連結



基本教練



漕舟(そうしゅう)



体力測定



行進



格闘

古河駐屯地各部隊等は、四月十日から四月二十日までの間で六社、計四十三名の企業生活体験を実施した。

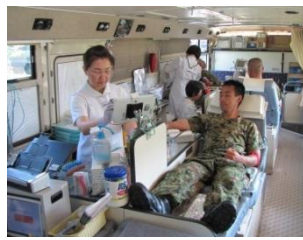
企業生活体験では、企業の要望である、規律心・団結心の向上に重点をおき、基本教練や格闘・連結・行進・重材料運搬・体力測定・救急法・漕舟等の体験を支援した。また、自衛隊の任務等も説明し、多岐にわたる活動などについて認識を深めていた。

着隊した参加者は、緊張した面持ちであったが、隊員達と接するうちに積極的に質問をしたり、返事も大きくなっていき、緊張感は無くなっていった。

終了した参加者からは、「基本教練等での集団行動や、人を指揮する事が難しかった。」「集団生活に戸惑ったが、同期と絆を深める事が出来た。」「会社では出来ない様々な事を体験させて頂き、勉強になった。」「等感想を述べた。

三日間という短い期間ではあったが、内容の濃い体験と同期の絆を深め、参加者は駐屯地を後にした。

曹友会



献血



交通安全運動

六月八日、曹友会は駐屯地において献血運動を実施した。

隊員の協力により、四十六名の成果をあげる事が出来た。

次回は九月二十日、駐屯地厚生センターにおいて実施を予定している。引き続き、隊員の協力をお願いする。

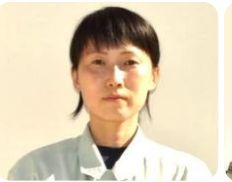
四月六日から十五日までの間、駐屯地において交通安全運動を実施した。

四月十日を「交通事故死ゼロを目指す日」に設定し、出勤時間帯にあわせ安全運転五則、自転車安全利用五則などを呼びかけ、交通法規遵守精神の高揚を図った。

新規採用者の紹介



古河駐屯地業務隊 小池技官



古河駐屯地業務隊 牛久保技官



第337高射中隊 松浦士長



古河駐屯地業務隊 岩本技官

四月一日付、再任用自衛官一名(松浦士長)、新規採用技官一名(牛久保技官)、六月一日付、新規採用技官一名(小池技官)、七月一日付、新規採用技官一名(岩本技官)計四名の隊員等が新戦力として古河駐屯地に配置された。

定年退官者(予定)の紹介



第102施設直接支援大隊 生沼曹長 10月15日付



関東補給処古河支処 渡邊1尉 9月29日付



関東補給処古河支処 竹村准尉 9月27日付



第102施設直接支援大隊 秋山曹長 9月18日付



古河駐屯地業務隊 屋代2尉 9月2日付

関東補給処古河支処



銘板の贈呈時に
記念撮影

四月十八日、来訪された補給統制本部施設部長 大久保一佐へ完成した銘板の贈呈を行った。

製造は、細かい手作業による砂型の製作や、液体にした材料（湯）を型へ流し込む際の湯温管理など高い技術力と経験を要するため、製作できる技術者が限られていた。

製作を担当した工場の隊員は、今回の製作過程において、製造技術の継承を見据えた後継者育成とともに、技術の練磨、技術の向上を図った。



追送部品等の確認作業

五月九日から十九日までの間、平成三十年度春季東・北富士演習場定期整備支援を実施した。支援期間中、部隊からの要求に基づき、計七回の部品補給を実施するとともに、野整備部隊に対する技術援助を実施して、施設器材の可動率向上に寄与した。

また、本定期整備支援の場を活用し、前方兵站支援を想定した指揮所の開設・運営について演習するとともに、野整備部隊に陸士を派遣し、野外における整備能力及び戦闘基礎動作の練度向上を図った。



監視用掩体の構築

六月十一日から十三日までの間、BASE訓練を実施した。

課目は、分隊長訓練、ライナープレートをを使用した警戒施設（監視用掩体）の構築、通信車両の偽装、整備所天幕の構築要領、SOP教育等について演練した。本訓練に分隊長として参加した隊員は、命令下達、作業指示による実用指揮・統制の難しさを実感し、分隊長はそれぞれ敵を意識した行動等、戦闘基礎動作について再認識するなど実りある訓練となった。



合同調整所における
支援活動

古河駐屯地業務隊



外柵応急復旧作業



1号庁舎雨漏補修作業



30JXR (非常用糧食配付)



即応実動訓練 (指揮所活動)

1 四半期駐屯地施設の整備として、四月に1号庁舎三階DS保全室雨漏補修等九件、五月に食堂壁穴あき補修、隊舎壁クロス補修等十六件、六月に1号庁舎女性施設改修、厨房床補修等二十七件、計五十二件の整備を実施し勤務・生活環境の不断の改善を図った。特に1号庁舎女性施設の改修は男性用トイレを女性用トイレに改修するとともに、倉庫部分を女子更衣室に改修し、女性活躍推進の為に基盤整備を図った。

また、五月二十九日、部外車両の衝突によって生じた駐屯地外柵の破損部分を応急復旧し駐屯地の警備・保守を図った。

四月二十三日、大規模震災発生を想定した即応実動訓練を実施するとともに、六月十九日から二十二日の間、30JXRに参加した。

即応実動訓練では非常呼集による緊急登庁、指揮所開設から、部隊の派遣及び緊急登庁等に伴う各種支援等を実施。この際、第一〇一施設器材隊との連携・協同訓練を実施し、駐屯地所在部隊との連携要領を確認することができた。

また、30JXRでは方面隊の訓練に参加するとともに自隊での訓練を実施、震災対処計画の実効性を確認するとともに震災対処能力の向上を図ることができた。

隊は今後も訓練・検証を重ね大規模震災における実効性を高めていく。

第101施設器材隊



HMG射撃



無反動砲射撃



集合写真



隊長からの説明

七月二日から五日までの間、相馬原演習場において、隊射撃・爆破訓練を実施した。

射撃においては、部隊が保有する、84ミリ無反動砲、LAM及び重機関銃射撃を実施し、各射撃において、「全弾必中」の精神で射撃に挑み、見事目標に命中させた。

爆破では、72式対戦車地雷の誘爆を行い、基本基礎動作を厳格に実施し、無事地雷を誘爆させる事が出来た。

本訓練を通じて、器材隊長が重視している射撃及び爆破能力向上に繋ぎ、無事、隊射撃及び爆破訓練を終えた。

五月十二日、清々しい陽気の中、隊員家族との連携強化及び隊員の士気高揚を目的として、古河駐屯地より、隊員家族及び器材隊OB会の方々、静岡県滝ヶ原地区において、隊舎及び第二アワードバスコンクリート舗装工事現地見学を実施した。

当初、隊長より器材隊指揮所勤務の様子や隊舎地区での隊員達の生活が紹介された。なお、現地見学では、日頃、目にする事の少ない隊員の勇姿に、家族から感動の声があがり、隊員の士気が高まった。

第301ダンプ車両中隊



第2戦闘射場迂回路構築

五月八日から十九日までの間、春季東富士演習で定期整備に参加した。整備の場を活用し、ダンプトラック及び施設器材の操作能力の向上に努めた。また、第二戦闘射場の迂回路工事を担任し、測量から運土、器材のすべてを中隊で実施し、ダンプ中隊の施設能力の高さを示した。



ダンプを駆使し土砂等を排除

四月十日から二十日までの間、第一期東富士演習場応急復旧整備が実施され、中隊は第一施設団作業隊を担任し、富士教導団を支援した。演習場内の機動路及び流路工内の土砂等を排除し、演習場機能の早期回復に寄与した。

320基地通信中隊 古河派遣隊



部隊と隊員家族の交流

六月三日に行われた駐屯地記念行事において古河派遣隊は電話構成班として支援にあたり、警備等に必要となる回線を構成した。記念行事当日は天候にも恵まれ、隊員家族にも多数来訪、部隊と隊員家族、隊員家族間での交流を更に深めることが出来た。



教官の指導の下練成する隊員

六月二十五日及び二十六日に実施される中隊格闘検定の練成のため同月二十日、格闘指導員である同中隊習志野派遣隊長の工藤三尉が来隊、検定合格を目指す派遣隊一同に対し指導が行われた。午前中は第一課題、午後からは対象者に対し第二課題を実施時の要点を示しながら展示練成が行われた。

曹友会



クリーン作戦

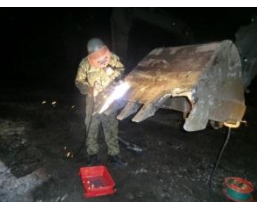
六月十五日、古河駐屯地周辺においてクリーン作戦を実施した。雨が降る中であつたが隊員達は二組に分かれ、道路沿いなどのごみをくまなく回収した。成果は、燃えるごみを二袋、資源ごみを一袋集め、勤務環境周辺の環境美化に貢献した。



サンドイッチ教室

六月二十四日、五才から十二才の親子を対象としたサンドイッチ教室を山崎製パン株式会社協力のもと開催した。大家族二十四名が参加し、親子一緒に作るサンドイッチを楽しく作り、おいしそうにはおぼつて食べていた。イベントを通じて親子交流及び部隊の垣根を越えた参加者間の交流が図られた。

第102施設直接支援大隊



油圧ショベル故障整備

五月七日から十九日までの間、春季東・北富士演習場定期整備に参加し、野整備支援を実施し、本演習場定期整備の円滑な実施に寄与するとともに、本期間を部隊練成の場として最大限活用し、野外整備能力の向上を図った。なお、期間を通じ関東補給処古河支処の隊員二名を受け入れ、野整備部隊に対する理解促進を図った。



2/1tトラック回収

六月五日から七日までの間、二夜三日にわたり第一直接支援隊(松本)に対する訓練検閲を実施した。受閲部隊は期間を通じて、部隊一丸となつて野整備にまい進し、第三〇七施設隊の任務完遂に貢献した。

第337高射中隊



集合写真



行進

四月十八日から二十日までの間、三井化学東セロ株式会社及び日本パ里昂株式会社に対して生活体験支援を実施した。体験内容は、自衛官の基礎である基本教練に始まり、高射中隊の装備研修、格闘や行進等を実施した。中でも基本教練においては、右も左も分らない状態から号令に反応するようになり最後には分隊を指揮できるまでとなった。また、本体験最後の課題である行進においても一人の脱落者を出さず無く完歩した。無事教育を終了した彼らの表情は当初と比べ、勇ましくなっていた。この教育の中で得た教訓が今後の仕事や生活の一助となれば幸いである。

第341会計隊



優秀隊員 灰野3曹

五月九日から十九日までの間、定期演習場整備会計同行支援班として、福永三尉、青木二曹、灰野三曹が参加し、整備隊に必要な借上器材に係わる調整、糧食品現地調達及び緊急調達対応等を実施した。



指揮所

第一施設団長より、優秀隊員として灰野三曹が表彰を受けた。東部方面会計隊隷下として30JXRに参加し、緊急登頂訓練を実施した。発災後は指揮所の開設、指揮幕僚活動の演習を行うとともに方面会計隊のVTCを用いた作戦会議に参加した。又、当地計隊からは下総航航空基地で行われた兵站開設実働訓練に二名参加した。蓋然性の高い災害の実想を認識し、対処計画の検証により支援体制の確立を資することができた。